

## 第2章 事業計画

ビジョンで示した「取組の方向性」を本計画の計画期間（平成28年度～31年度）の「施策目標」として位置付け、次の具体的取組を重点的に進めることで、20年後から30年後の将来像の実現を目指します。

### 第2章

### 事業計画

#### 施策目標1

#### 安全で良質な水

P.52～P.61

（領域）住宅～広域

- 【1】道志水源林の保全
- 【2】相模湖及び津久井湖の水質保全対策等の促進
- 【3】西谷浄水場の再整備
- 【4】小雀浄水場の活性炭注入設備の更新
- 【5】川井浄水場の運転管理
- 【6】安全で良質な水を造るための品質管理
- 【7】子どもたちが水道水を飲む文化を育む事業
- 【8】直結給水の促進
- 【9】受水槽施設に対する指導・助言



西谷浄水場

#### 施策目標2

#### 災害に強い水道

P.62～P.73

（領域）住宅～広域

- 【10】飲料水の備蓄促進
- 【11】応急給水体制の充実
- 【12】災害時給水所の整備
- 【13】災害時における各種団体との連携強化
- 【14】計画的な管路の更新・耐震化
- 【15】道路内給水管の更なる更新・耐震化
- 【16】基幹施設の更新・耐震化
- 【17】電機・計装設備などの計画的更新
- 【18】工業用水道施設の更新・耐震化
- 【19】工業用水道の応援給水施設の整備



給水訓練の様子

### 施策目標3

## 環境にやさしい水道

P.74~P.81

(領域) 都市~広域

- 【20】 自然流下系施設の優先的整備（西谷浄水場の再整備）
- 【21】 再生可能エネルギーの継続的な導入
- 【22】 配水ポンプにおけるエネルギーの効率化
- 【23】 水源エコプロジェクト W-eco・p（ウィコップ）
- 【24】 市民ボランティアとの協働による水源林の整備
- 【25】 「はまっ子どうし The Water」による水源保全  
PR・支援
- 【26】 環境教育の充実



小雀浄水場

### 施策目標4

## 充実した情報とサービス

P.82~P.89

(領域) 住宅~都市

- 【27】 暮らしに身近な水道を実感できる取組
- 【28】 横浜水道の歴史を伝える取組
- 【29】 お客様の声を事業に反映させる取組
- 【30】 料金関係業務における品質向上の取組
- 【31】 民間企業との協働による水まわり相談・講習
- 【32】 オープンデータの推進
- 【33】 給水装置工事に係る事務手続の電子化
- 【34】 ウェブサイトを活用した管路情報提供
- 【35】 工業用水道の新規利用案内サービスの導入



イベントを通じた広報

## 施策目標5

## 国内外における社会貢献

P.90～P.97

(領域) 地域～国際

- 【36】 高齢者が安心して暮らせるための取組
- 【37】 障害者就労施設等への発注促進
- 【38】 遊休土地の活用を通じた地域との連携強化
- 【39】 市内工事事業者の技術力向上支援
- 【40】 パートナーシップデスクの活用
- 【41】 水道事業における国際貢献の推進
- 【42】 横浜水ビジネス協議会の海外展開支援
- 【43】 横浜ウォーター株式会社との連携推進



フィリピンにおける漏水探索器を使った現場指導

## 施策目標6

## 持続可能な経営基盤

P.98～P.107

(領域) 住宅～国際

- 【44】 人材育成による組織力の向上
- 【45】 業務改善の推進による組織の活性化
- 【46】 効率的・効果的な執行体制の構築
- 【47】 水道事務所総合管理システムの構築
- 【48】 水道局資産の有効活用
- 【49】 企業債残高の縮減
- 【50】 料金体系の在り方の検討
- 【51】 工業用水道事業における企業債残高の縮減



業務改善事例の発表大会

## 第2章「事業計画」の構成


第2章「事業計画」では、6つの施策目標ごとに、「現状と課題」、「取組の内容」、「主要事業」の3項目で構成しています。

【現状と課題】 水道事業、工業用水道事業を取り巻く現状と課題を示しています。

【取組の内容】 現状と課題を踏まえ、ビジョンで示した将来像の実現に向けて、計画期間の4年間に実施する取組の内容を記載しています。

【主要事業】 施策目標に向けて実施する主な事業を記載しています。

### <各ページの見方>

1	1 道志水源林の保全 <b>公民連携</b>	2 事業費見込額 2.7億円
3	本市が所有する水源林（2,873ha）は、道志村の総面積の約36%にあたります。このうち約26%を占める人工林（762ha）については、水源かん養機能を高める針広混交林化を進めるため、管理計画に基づいた間伐等を計画的に行います。整備費用の一部には、水源エコプロジェクトW-eco・p（ウィコップ）※ <sup>1</sup> を活用します。 また、平成28年は道志水源林の取得から100年目にあたるため、様々な記念イベントを開催し、水源保全の大切さをPRします。	
4	<b>【指標】道志水源林の整備面積</b> 現状（24～27年度見込みの合計） 337ha/935ha※ <sup>2</sup> 目標（28～31年度の合計） 295ha/762ha※ <sup>2</sup>	 整備後の水源林

### 1 事業名

計画期間の4年間で実施する主要事業の名称です。

#### 【凡例と用語の定義】

**新規**

**新規事業**

新たに取り組む事業

**公民連携**

**公民連携事業**

地域、民間企業、大学、公の機関、NPO団体等と連携して進める事業

### 2 事業費見込額

現時点で見込まれる4年間（平成28年度～31年度）の概算事業費です。

### 3 取組の内容

4年間の取組の具体的内容を記載しています。

### 4 指 標

計画期間内における取組の進捗を管理していくために設定する指標です。